

辺野古新基地建設の即時中止、 沖縄のミサイル基地化反対の申し入れ

2021年12月7日
改憲・戦争阻止！大行進

千葉市中央区要町 2-8 動労千葉気付

Tel 043-222-7207

岸田政権は任期中の改憲、敵基地攻撃能力保有、防衛費倍増などを掲げ、対中国の侵略戦争の準備を推し進める立場をむき出しにしている。とりわけ辺野古新基地の推進を明言し、沖縄に自衛隊ミサイル部隊を配備し、侵略出撃拠点として強化し、実戦訓練を激化させている。対中国の侵略戦争へ向けた沖縄の最前線ミサイル基地化を絶対に許さない。

（１）辺野古への新基地建設を即時中止しろ！

11月25日、辺野古新基地建設を巡り、沖縄防衛局による軟弱地盤改良などの設計変更申請に対して、沖縄県・玉城知事が「不承認」を通知した。辺野古新基地建設反対は沖縄県民がくり返し突きつけてきた明確な声だ。

しかし政府は、ただちに変更区域外の工事は継続すると言い放ち、21年度補正予算案で辺野古の埋め立てに801億円を計上した。「私人なりすまし」と批判される行政不服審査制度を悪用して不承認の取り消しを図るなどの「対抗措置」を取ろうとしている。

さらに、埋め立てが始まる3年も前の2015年の段階で軟弱地盤についての事実を認識していたことも明らかになった。そもそも政府はこの軟弱地盤問題を一貫して隠し続け、土砂投入を開始した翌月の19年1月になって初めてそれを公表したのだ。

12年の第2次安倍政権以来、当時官房長官だった菅の指示で「辺野古会議」がつけられていたことが明らかになっている。防衛、国交、法務各省の官僚が非公式に集められ「霞ヶ関を総動員し、『かなりグレーな感じがする』（政府関係者）手法を駆使」（10/24朝日新聞）して、問答無用に工事を強行してきた。「工事を進めて移設を既成事実化し、沖縄の『戦意』をくじく。それが政権の意思だった」（元防衛省幹部）というのだ。絶対に許すことはできない。辺野古新基地新基地建設を直ちに中止せよ！

（２）沖縄のミサイル基地化絶対反対

11月14日、宮古島に地対艦・地対空ミサイルの弾薬搬入が強行された。海自輸送艦が民間の平良港に入港し、弾薬を載せた陸自の大型トラック15台など40台の軍用車両が公道を走り、陸自の保良訓練場（弾薬庫）に運び込んだのだ。

政府は、奄美大島、宮古島に続き、石垣島、沖縄本島・勝連分屯地（うるま市）に自衛

隊ミサイル部隊を配備しようとしている。沖縄―南西諸島を、対中国侵略戦争の最前線のミサイル基地に一変させようとしているのだ。それは、米軍が進める「第1列島線」上への地上発射型の中距離核ミサイル配備、米海兵隊が部隊を分散して島嶼に複数の攻撃拠点を構築し空母打撃軍による中国本土への本格攻撃の戦端を開く新戦術構想「遠征前方基地作戦（EABO）」と一体の、対中国の侵略戦争態勢であり、南西諸島全体が戦火に包まれることが大前提となったものだ。絶対に許すことはできない。自衛隊ミサイル部隊の配備計画をすべて撤回せよ！

（3）すべての軍事訓練を直ちに中止しろ！

9月から11月の陸自10万人の大演習、陸海空自3万人に米軍5800人が加わり沖縄で初めて民間港湾も使用した11月後半の自衛隊統合演習（水陸両用作戦、統合対艦攻撃訓練をはじめとした全面的な実動訓練）に続いて、12月4日から陸自と海兵隊の共同実動訓練（レゾリュートドラゴン21）が宮城・青森・岩手・北海道で行われている。オスプレイによる日米隊員の輸送展開訓練や、陸自の地对艦誘導弾（SSM）と米軍の高機動ロケット砲システムHIMARS（ハイマース）を用いた対艦戦闘訓練などが実施される。この訓練は、自衛隊として初めて、海兵隊のEABOとの連携が目的に据えられた。中国侵略戦争への突入を射程に入れた極めて実戦的な訓練だ。

こうした軍事訓練の激化の中で、沖縄のオスプレイからの住宅地への水筒落下、青森でのF16戦闘機の民家直近への燃料タンク投棄など事件・事故が激発している。沖縄―日本全土の「戦場化」が前提となり、住民がどんなに犠牲になっても構わないという軍事・戦争の論理が前面に出てきているからだ。

政府が辺野古推進のために言う「危険性除去」や「沖縄の負担軽減」がいかにデタラメなものかも示されている。すべての軍事訓練を直ちに中止せよ！

（4）防衛費増額―大軍拡と改憲を許さない

岸田政権は閣議決定した補正予算案に7738億円もの防衛費を計上し、膨大な新規装備品の購入費を盛り込んだ。「コロナ対策」を銘打った経済対策の柱の一つに「国民の安全・安心の確保」を入れ、そのためには軍事力強化が必要だということんでもない論理で、防衛費増額を進めている。

しかし、岸田政権の大軍拡と改憲・戦争に対して、怒りの声と闘いがわき上がっている。その先頭で、辺野古の四半世紀を超える連日の座り込み、土砂搬入阻止の闘いが取り組まれている。宮古島や石垣島をはじめ各地で軍事要塞化―戦場化を阻む必死の闘いが展開されている。11月7日には、東京・日比谷野外音楽堂に、全国から労働者・学生が結集し、新自由主義と改憲に立ち向かう、闘う労働組合を先頭にした力強い運動が登場した。

私たち改憲・戦争阻止！大行進は、中国侵略戦争阻止、沖縄の全基地撤去、改憲・戦争阻止の巨大な闘いをつくり出すことを宣言するとともに、上述の項目についてあらためて強く申し入れる。

以上